



# 第1会場●2F第4研修室

■司 会／松本 英俊 長崎県諫早市  
谷川 裕子 福岡県教育庁北筑後教育事務所生涯学習室 社会教育主事

## 1 幼少年教育システムにおける「教育」と「福祉」の融合 10:45～11:10

ー保育所が教育委員会にやってきた!!!ー

山田 晋（鳥取県） 大山町教育委員会 教育長

幼保一元化を推進し、少子化を呪み、保育を進めながら教育プログラムも同時に導入し、財政上の教育と福祉行政を統合できれば、プログラムの総合化が可能になる。将来的に通常の学童保育と様々な形態の幼少年プログラムの統合を果せば総合的な子育て支援行政が実行できる。問題はシステムの不在であり、最大のネックは縦割りの弊害を指摘しながら実際には総合行政の実現ができなかった「連携」論や「融合」論にあるのではなかったか!?

## 2 まつもと融合教育とジュニア生涯学習 11:10～11:35

「ジュニア生涯学習チャレンジ100単位プラン」

窪園 昭宏（鹿児島市松元地域） まつもとジュニア生涯学習サポート推進委員会 事務局長

平成13年度から松元融合教育を推進。15年度から表記事業を实践。推進組織には松元地区のすべての青少年育成関連機関団体の参画を求め、地域を上げて児童・生徒の生涯学習実践を推進した。工夫の核心は「ジュニア生涯学習手帳」で年間100単位（家庭50単位、地域40単位、学校10単位）の活動実践と修得の認定を目指している。具体的な成果は参加者の意欲の向上、活動成果の数量的体感、指導者との交流の拡大と尊敬心の育成、指導者間の連携の強化、地域連帯感の向上などである。

## 3 ジャグリング・パフォーマンスを通した学校クラブ活動の創設と地域との連携 11:35～12:00

前津 文啓（変身時の名前：くらうん・ぶんぶん）（沖縄県那覇市） NPO法人なはまちづくりネット

子どもの表現力育成を目指してジャグリングのパフォーマンスを行うサークルが小学校と連携してクラブ活動の中に導入した。活動は現在週1回2時間程度。ジャグリングを通して学校と地域を繋ぐことを目標に地域の祭や学校行事、児童館などに出演して交流を促進している。発表者が所属するNPO法人なはまちづくりネットは公民館運営の一部を委託されている。

## 4 総括討論 12:00～12:30



# 第1会場●2F第4研修室

司 会／内藤 妙子 福岡県生活労働部青少年課青少年アンビシャス運動推進室 企画主査  
石川 順雄 広島県尾道市教育委員会生涯教育課 社会教育主事

## 1 美術館における少年のための「ふるさと教育」の実践と成果 13:30～13:55

－「石正美術館」の「本物」鑑賞を創作活動につなぐふるさと評価の方法－

神 英雄（島根県） 浜田市立石正美術館 主任学芸員

開館以来、活動の中心は日本画家・石本正の作品を通して子ども達にふるさと「石見」地区の歴史と文化を伝えることに置いた。活動の核は作品を通してふるさとの再評価であり、「本物」の鑑賞の感動を創作活動に結び付けて参加者の創造力を養うことを目指した。活動の過程には市民の「美術館サポーター」を導入し、5年を経て、子どもの変化が著しく、地域も元気になった。

## 2 東国東（ひがしくにさき）デザイン会議のまちづくり・教育力向上戦略 13:55～14:20

－子育てを中核とした地域総参加の協働プログラム－

富永 六男（大分県国東市安岐町） 東国東デザイン会議

東国東デザイン会議は平成元年の結成。40～50代の住民提案を受けて、平成17年度からは、地域づくりと教育力向上プロジェクトを結合し、子育て支援を中核としたプログラムを学校、PTA、社会教育行政、住民の協働によって展開中。シンポジウム、講演会、小規模の単位集団での討論会などを組み合わせ問題意識の醸成に成功している。次の課題は人々の意識の変化を具体的な活動として実践することである。

ティータイム

14:20～14:55

## 3 私はひっさつ仕掛人！ 障害者小規模作業所イベント 盛り上がりのミソ 14:55～15:20

大田 百子（鳥取県淀江町） 淀江小規模作業所 スタッフ

精神・知的障害者が通う小規模作業所が通所者と運営スタッフの協力によって、地域社会との共生を目指したイベントづくりの取り組みを始めた。財源は行政の補助金を基にしたが、課題はメンバーの主体性を企画・運営にどのように活かすかであった。毎年1つのイベントの創出はメンバーの意識と行動を変え、地域住民との交流も芽生え、「応援団」も結成されるまでになった。

## 4 韓国釜山地域平生教育情報センターの現状と課題 15:20～15:45

金富允・朴在国（韓国釜山） 金富允（キム ブーユン） 釜山大学校平生教育院 院長  
朴在国（パック チェグック） 釜山大学校平生教育院 副院長

韓国釜山地域平生教育情報センターの現状について紹介するとともに、日本における動向と比較しながら韓国における今後の発展のための課題について検討する。

## 5 総括討論

15:45～16:15



## 第2会場●2F 自由研修室

■司 会／和田富美子 佐賀県武雄市立北方幼稚園 園長  
井上 成人 山口県生涯学習推進センター 社会教育主事

### 1 学校支援ボランティアを「環」とした学社連携事業の方法と論理 10:45～11:10

－学校と公民館と地域住民と子どもを繋いだ生涯学習の地域還元事業－

原 敦代（島根県） 大社町荒木コミュニティセンター チーフマネージャー

公民館と学校の連携が実を結んで、公民館主催講座の受講生の学習成果の地域還元活動が学校支援ボランティアの形で実現した。活動は学校と公民館と受講生と子どもの4者で構成するが、公民館が中心となって、コーディネート機能を担当し、学校支援はもとより、学習の成果を還元する舞台を子どもにも、講座生にも整えることに成功した。結果的に地域住民の地域のための貢献の意識も実践も向上し、子どもの地域活動への参加も育てることに成功している。

### 2 学校、地域、社会教育行政の協働による地域教育力向上施策の実践 11:10～11:35

－学社融合理念に基づく少年教育の総合化システムの構築－

井関 嘉昭（長崎県） 琴海長浦町学社融合推進委員会 学社融合係長

平成12年度以来、地域教育資源の総合的活用を図るため、企画を担当する「推進委員会」と実践を担当する「校区内実施委員会」を小学校4校、中学校1校に設置して学社融合の具体化に挑戦している。推進委員会では体験活動、調べ学習のワークショップなどを企画し、校区内実施委員会が学校区ごとに運営している。財源は青少年育成協議会予算および社会教育総務費をあてている。学社融合の認識が深まり、異なった機関間の協働も機能し始めている。

### 3 子ども会指導体制の充実・増強とジュニアリーダー養成事業の組織化 11:35～12:00

－福岡県糸島地区「子ども会指導者の会」の活動展開－

泊 武人（福岡県） 福岡県糸島地区子ども会指導者の会 会長

「指導者の会」は福岡県プレイリーダー1級研修の修了者を中心に平成13年に発足。指導者の増強、子ども会指導の充実・発展を目的として技能向上のためのフォローアップ研修の実施、ジュニアリーダーの養成研修を組織化した。青少年アンビシャス運動や糸島地区ボランティア派遣事業に団体登録して、子ども会活動への指導者の派遣等を行っている。

### 4 総括討論

12:00～12:30



# 第2会場●2F 自由研修室

司 会／芳川 雅行 広島県教育委員会生涯学習課 主任社会教育主事  
伊東 俊昭 大分県教育庁生涯学習課 社会教育主事

## 1 植田正治（うえだしょうじ）写真美術館の「オマージュ展」を核とした観光推進の参加型イベントの創造 13:30～13:55

－地域発信型写真美術の啓蒙と国立公園大山山麓の広域の集客挑戦－

幸形 信之（鳥取県伯耆町） NPO 大山中海観光推進機構 副理事長 「オマージュ」応援団

表記美術館で全国的に話題性のある故植田正治にささぐ「オマージュ（尊敬）」展が開催されるにつき、来館者へのサービスを抜本的に革新し、観光推進・集客確保に挑戦する地元密着・地元参加型のイベントを創造する。活動の中心は美術館、伯耆町役場の関係各課、「大山王国」、NPO 大山中海観光推進機構、「オマージュ」応援団などである。全国から多数の来館者を得るため美術館の特設観光案内所とインターネット上の特設ホームページで案内活動を展開した。成果は質量共に当初の目標を達成したことである。

## 2 豊後高田市「スクラム・プロジェクト」の子育て支援まちづくり 13:55～14:20

辛島 時之（大分県） 豊後高田市教育委員会 地域協育コーディネーター

豊後高田市が進めてきた少年教育の総合的事業の実績の上に平成17年度から開始した地域総参加の子育て支援まちづくりモデル事業。中学校区の公民館を中心に地域の住民が地域の子どもの活動に関わり、安全と環境浄化活動に取り組み、地域がスクラムを組んで子どもの教育を核としたネットワークシステムを構築し、地域の「協育振興」を目指している。

ティータイム 14:20～14:55

## 3 高校生ボランティアのまちづくり 14:55～15:20

－「知覧茶アピール」から「ふるさと大会」まで－

中村 宗義（鹿児島県） 知覧町教育委員会 社会教育主事

高校生によるボランティア活動を充実させるために、昭和60年「知覧町高校生クラブ（育成連絡協議会）」を結成。校区の学生役員が集まり、夏に行われる「高校生ふるさと大会（ボランティア大会）」の内容や運営方法について話し合う。また、町民体育大会、武者行例等の町イベントにも参加し、盛り上げる等、活動内容は多種多様。平成14年には「薩南工業高等学校茶ボラ」が立ち上げられ、年8回の知覧茶のアピール活動を行っている。現在の行政が育成連絡協議会に働きかける形から、高校生主導への展開が課題である。

## 4 「あいさつ日本一」の町を目指し、あいさつによる交流・友愛・活力の創造 15:20～15:45

－「あいさつボランティア大使」、「あいさつ名人」、「あいさつチャンピオン大会」がつなぐ地域の輪－

都 英幸（福岡県高田町）「高田町あいさつボランティア協会」事務局長

あいさつで明るい社会と子ども達の健やかな成長を願い、「あいさつボランティア大使」、「あいさつ名人」、「あいさつチャンピオン大会」等の工夫を学校、地域、職場、および路上で展開。現在会員数150名。会員の中には「あいさつボランティア大使」として小学校へ赴いたり、路上での「あいさつ運動」に参加している。「日本一あいさつする町」を目標に近隣市町にも拡大。1,200名余の「あいさつ名人」が誕生した。

## 5 総括討論 15:45～16:15



# 第3会場●3F 第5研修室

■司 会/山下 伸明 鳥取県教育委員会事務局家庭・地域教育課 社会教育主事  
丸谷 由 沖縄県ネコのわくわく自然教室 代表

## 1 NPO 法人子どもたちと共に学ぶ教室シニアスクールの過程と成果 10:45 ~ 11:10

－「コミュニティ・スクール実践研究校」の挑戦と試行錯誤－

藤井 敏明（岡山市岡町） NPO 法人子ども達と共に学ぶ教室シニアスクール 理事

文科省指定「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究校」として出発し、「コミュニティ・スクール」のモデルを提示することが課題であった。実践上の枠組みとして中学校区内のすべての保育・教育機関が連携した地域教育力の向上の取り組みとして「シニアスクール」を企画し、ボランティア講師を募集し、学習内容を検討し、世代間交流の実態を研究した。結果的に、高齢者は新しい目的を発見し、高齢者と共存している学校・園の子ども達は落ち着きを取り戻した。

## 2 生涯学習実践研修の創造と企画運営方法の転換 11:10 ~ 11:35

－山口県プランニング・マネジメント研修の自己企画－実践プロセスの検証－

赤田 博夫（山口県） 山口県生涯学習推進センター 主査  
大島 まな 九州女子短期大学 助教授

研修運営上の第1ポイントは班別研修グループ：実践チームの編成である。現状分析から問題の設定、処方施策の提案と施策の具体化のための個別プログラムの作成まですべての過程をKJ法を活用して作成した。実践を前提とした自己診断－自己分析－自己企画の方法で作業を進めた。第2ポイントは合宿形式の研修で「同じ釜の飯」：「経験の共有」時間を確保し、「持ち寄り方式」の夕食会で連帯感の醸成に努めた。第3のポイントはグループ実践を研修担当者がきめ細かくフォローし、情報の相互交流に努めた。結果的に5班すべての計画が実践に移されてそれぞれの成果を上げた。

## 3 文化振興と交流を目指した「地域ブロック文化交流システム」の構築 11:35 ~ 12:00

－5町文化協会の連合による総合的文化創作発表ステージの創造－

宮地 より子（長崎市） 香焼町文化協会 会長

平成9年に発足。郡内5町の交流を深めるため各文化協会と教育委員会の協働による年1回、持ち回り方式の合同創作発表会である。旧町の交流と文化活動の振興を目的とし、住民による多様な活動の発表ステージを創造して、文化振興、交流活動を展開中。企画は持ち回り方式で、当該年度の担当協会の創意工夫を取り入れ、経費は折半する。事業の企画運営は「長崎市南部地区文化交流のつどい実行委員会」方式で行われている。

## 4 総括討論 12:00 ~ 12:30



# 第3会場●3F 第5研修室

■司 会／原田 尚 島根県雲南市教育委員会 地域教育コーディネーター  
鴻上 哲也 佐賀県伊万里市立大川内小学校 教頭

## 1 「夢おいびと」ボランティアによる総合的ふるさとづくりの実践 13:30～13:55

ー地域とともに培った13年のロングロマンー

赤川 和恵（山口県宇部市東岐波区）仲間「夢おいびと」代表

実践のテーマは青少年の育成、文化の継承、地域の活性化、冒険の創造まで総合的で多岐に渡っている。教育委員会や県の特別プログラムへの参加をてこにふるさとの夢を追う仲間が集って13年の実践を積み上げてきた。現有メンバーは21人、協力メンバーを含めると約40名の実践集団である。鍵は定例の「夢談義」。夢を追う談義から発した企画には「初日の出夢登山」、「魚夢祭り」、「自然夢体験」、「ナイト夢ハイク」などがある。

## 2 あなたの持ち味活かしま専科 13:55～14:20

ー佐賀県生涯学習インストラクターの会：「クリエイトさが」の生涯学習支援ー

大島 弘子（佐賀県）佐賀県生涯学習インストラクターの会 会長

平成15年度佐賀県立生涯学習センターの自主企画講座から出発。会員60名。民間の視点で学習者支援と指導者派遣制度を展開中。講師養成の会員研修は自主講座；レジュメ作成、企画力、運営力、指導マナーにいたるまでを含んでいる。講師謝礼の10%を会に納入する規定によって活動財源を確保している。行政との協働が進み、インストラクター資格取得のための通信教育受講者数が増加している。

ティータイム 14:20～14:55

## 3 女性の視点で展開するコミュニティ・カフェ「夢ほっとプラザ」の構想と展開 14:55～15:20

ー地域と子どもを元気にするNPOの生涯学習の企画とネットワーキングー

湊 照代（岡山県備前市日生町）NPO法人ふれあいサポートちゃていず 代表理事

平成12年、主婦の立場、親の視点で活動していたボランティアグループから発足。商店街の空き店舗を利用してコミュニティCafe：「夢ほっとプラザ」を開設し、生涯学習の人材育成、子どもイベントの企画、子育てサポート、出張読み聞かせ等を実施している。岡山県内で活動するNPO法人による生涯学習プログラムの交流とネットワークの構築を目指して活動中。

## 4 「みくにつこアンビシャス広場」による青少年育成の総合的アプローチ 15:20～15:45

伊藤 浩一（福岡県小郡市）みくにつこアンビシャス広場委員会 代表

平成14年に開設。委員会は三国小学校の保護者と住民ボランティアで構成され、現在会員数83名、定例のスタッフ会議、報告会、通信紙の発行などを行う。従来の子ども会活動の枠を越え、校区全体を対象とし、中学生、高校生の参加も得て、活動の基本である児童の放課後の居場所づくりから体験活動の各種イベント、演劇、農園、英語教室、囲碁教室などの継続的活動まで組み込んでいる。活動の拠点は三国小PTA会議室、体育館、校区公民館などである。

## 5 総括討論 15:45～16:15



## 第4会場●4F 大研修室

■司 会／蓮本 恒知 熊本県教育庁社会教育課 社会教育指導係・社会教育主事  
藤井 伸治 島根県立西部生涯学習推進センター 社会教育主事

### 1 実践的高齢者大学への「調査」・「企画」・「発表」プロセスの展開 10:45～11:10

－趣味・教養講座から地域活動の人材養成講座へ－

中溝 孝博（佐賀県） 佐賀県高齢者大学担当

一般に高齢者大学は「社会還元」ができていないとの批判にこたえて、座学での「趣味・教養講座」から、地域で活動する「人材づくりプログラム」に転換を目指した。2年課程の1年目は基礎教養講座を中心とし、2年目に実践のための「ニーズ調査」、「プロジェクトの企画」、「成果の発表」という一連の活動を予定している。4コースあるが、「郷土社会コース」は長崎街道ガイド、吉野ヶ里遺跡ガイド実習等、「文化芸術コース」および「ボランティアコース」では公民館ボランティア活動実習、福祉施設ボランティア実習等を含めている。

### 2 行政と地域の協働による地域が育てる少年活動 11:10～11:35

－「土曜楽校」から「学力アップ講座」まで－

松浦 靖明（鳥取県） 三朝町教育委員会 指導主事

地区公民館を中心とした地域ぐるみの子ども会支援活動が全町の健全育成活動に発展。活動の中心は公民館、PTA、教育支援ボランティアの3者連合体、活動は学校週五日制対応の「土曜楽校」から、スポーツ、野外体験、通学合宿、学力アップ講座など多様である。活動を通して学校と地域の連携、高齢者の指導参加と「役立ち感」の達成、地域の価値の再認識等が進んでいる。

### 3 「熟年式」構想の意味と意義 11:35～12:00

－熟年の「生きる力」と地域活力の創造－

長谷川 進一（山口市阿知須） 熟年式実行委員

「熟年式」は第2の成人式と位置づけている。還暦、定年、老いなどの人生の転機を前に、人々は労働以外の分野でどのような人生設計を組み立て、どのように地域活動に参加して行くのか？第2の成人式は卒業であり同時に入学ではないのか？赤いかみしも姿で整列した熟年の活動支援のあり方を問う。

### 4 総括討論 12:00～12:30



# 第4会場●4F 大研修室

司会／岩切 義和 大分県教育庁生涯学習課 主任社会教育主事  
南川 雪子 佐賀県教育庁社会教育課 指導主事

## 1 総合型地域スポーツクラブのコミュニティ再生機能 13:30～13:55

ー春日少年サッカークラブの進化とコミュニティスポーツの創造ー

白水 卓之（福岡県春日市） NPO 法人春日イーグルス 理事長

昭和56年に設立された少年サッカークラブが進化を遂げて平成13年に地域総合型スポーツクラブへ移行し、さらに平成14年にNPO法人の認定を受けてスポーツを通じたコミュニティの再生機能を担うことになった。生涯スポーツの理念の具体化を目指してスポーツ教室の開催、スポーツ選手の育成、レクリエーション指導など実践とコミュニケーションの両機能の同時促進を目的とした活動を展開している。

## 2 郷土で学び、郷土を学び、郷土に貢献する「艸舎」(そうじゃ)の実践と使命 13:55～14:20

ー地域文化再発見と人材ネットワークの形成ー

池水 聖子（鹿児島県）（財）鹿児島県青年会館艸舎 事務局長

2001年青年会館の新装オープンと同時に開始した地域文化再発見の自主事業。鹿児島の年中行事や伝統芸能をテーマに年1回イベントや講習会、展示会を企画、県下の青年グループ、デザイナー集団、大学生、読書グループなどで実行委員会を結成。人材の育成とネットワークの形成、青年会館の拠点機能の充実を目的として異業種メンバーの実践的コラボレーションを進めている。H17年度のテーマは「さつまのアッカ  
ンさあ、さつま人 今は自ら火の柱せよ」であった。

ティータイム

14:20～14:55

## 3 子どもが輝くまちづくりプログラムの創造と実践 14:55～15:45

ー「ビッグフィールド大野隊」は何を学び、何に挑戦したか！？ー

川田 裕子とビッグフィールド大野隊隊員（広島県廿日市市大野町）

大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター

子どもの世界が様々におかしいのに、子どもに何も教えず、何も伝えずに大人社会に出していいのか？ビッグフィールド大野隊は地域が支える「子どもクラブ」である。クラブ活動の中身と方法は多種多様で挑戦的である。活動の核心は子どもの挑戦を支援する大人の挑戦。子どもも大人も自らの努力と責任で、家族を思い、友を思い、地域の人々に貢献できる自分になることである。目的に向かって努力ができれば、みんなが中国・四国・九州地区の発表会に参加しよう、を合い言葉に頑張った活動である。

## 4 総括討論

15:45～16:15





## 第5会場●4F 視聴覚室

■司 会/石田 祐子 山口県長門市教育委員会 派遣社会教育主事  
満倉ひとみ 福岡県福智町立弁城小学校 校長

### 1 「開かれた学校」と「子どもの居場所」の結合 10:45～11:10

ー「あそびの城」と「ひしっ子エコレンジャー」プログラムー

上野 祥子（熊本県植木町） 植木町ファミリースポーツ・レクリエーション協会  
菱形小学校 学校評議員

学校は「開かれた学校」を目指し、地域は子どもの健全な発達を希求している。学校評議員制度を核に子どもの居場所プログラムと学校開放の理念を結合。活動の中心組織は植木町ファミリースポーツ・レクリエーション協会と菱形小学校である。学校と地域団体の協力関係を確立し、ボランティアも組織して、学校の内外で子どものための定例活動および不定期の食育、環境保全、安全管理プログラムなど多様な分野で実践を展開している。

### 2 学校を拠点とした「子育て」、「子育て」支援プログラムの実際と運営 11:10～11:35

ーボランティアが作る子どもの居場所と体験活動ー

安藤 珠美（鳥根県益田市高津町） 高津ボランティアハウス・コーディネーター

高津ボランティアハウス・コーディネーターは21名で構成され、ハウスの活動企画・運営を担当している。拠点は高津小学校内の空き教室で、主たる活動は平日・休日の子どものための体験活動プログラムの創造と実践である。年間延べ9,500名の子どもが参加、延べ約1,300名のボランティアが支援している。指導時間帯は平日で14時から17時、休日は半日の「体験プログラム」を企画している。課題は完全「自主運営」のシステムづくりである。

### 3 年中開催・学校拠点型子育て支援プログラムの論理と方法 11:35～12:00

ー尾道市地域子ども教室の事業システムー

磯兼 智道（広島県） 尾道市教育委員会 社会教育主事

子ども教室は年間220日間の開催が最大の特徴。指導者は地域のボランティア人材。活動の拠点は学校と社会教育施設にまたがる。受益者負担の原則を導入し、地域の実情に応じて、活動内容は各種体験プログラム、安全の保障、異学年・異年齢の交流などを含んでいる。2教室から出発し、合併をはさんで現在は11教室に拡大している。

### 4 総括討論 12:00～12:30



# 第5会場●4F 視聴覚室

司会／中原 崇詞 鳥取県米子市教育委員会生涯学習課 社会教育主事  
平地佐代子 福岡県九州共立大学・九州女子大学・九州女子短期大学生涯学習研究センター 所長補佐

## 1 『えんがわくらぶ』－高齢者の活力創造と世代間交流の子育て支援－ 13:30～13:55

山川 千寿（福岡県古賀市） えんがわくらぶ 代表世話人

『えんがわくらぶ』（古賀市高齢者生きがいづくり支援センター）は施設と運営費を市が提供し、シニアルネサンス財団と委託契約を結び、山川をはじめ4名のシニアライフアドバイザーがスタッフとして運営に携わっている。活動拠点は古賀東小学校の旧用務員宿舎。高齢者の平均年齢は67才。3世代子育て支援、退職男性の地域デビュー、学校教育への参画、地域リーダーの養成などの成果が生まれていった。

## 2 絵本・体操・物語で構成する子どもの夏休み特別プログラム 13:55～14:20

－民生・児童委員が展開する子育て支援事業－

木村 泰代（佐賀市諸富町） 諸富地区民生児童委員

出発は昭和56年。夏休みのラジオ体操をきっかけにして総合的な子ども活動に展開。子育てサポートグループ「かすたねっと」も誕生し、民生・児童委員の参加を得て小学生対象の活動が幼児、保護者、地域住民にまで拡大し、プログラムの豊富化、コミュニケーションの深化が実現し、着実な活動が地域に根づいている。

ティータイム 14:20～14:55

## 3 福祉保健所による子育て支援・地域づくりプロジェクトへの参画 14:55～15:20

－「本」と「おはなし」で地域を結ぶネットワーク活動の官民協働の論理と方法－

元吉 喜志男（高知県） 高知県健康福祉部 副部長（総括）

高知「本」と「おはなし」ネット 会員

活動の主体は平成14年民間のボランティアが設立した「のいち子ども図書館クラブ」から出発し、市町村の単位を越えた「高知「本」と「おはなし」ネット」に拡大・発展し、子どもと本の出会いを促進してきた。各種プログラムの実践を経て、情報交流、事業共同の輪が拡大して関係組織の領域や世代を越え、官民協働のプロジェクトに進化を遂げた。結果的に実行組織は異業種交流の多機能・多様性を活かした混成チームに発展し、子どもへの「読み聞かせ」を原点としながらも、地域づくりを視野に入れた総合的な活動を展開し始めている。

## 4 異校種PTAネットワーク「地域の宝」事業 15:20～15:45

末廣 弘江（大分県杵築市）「地域の宝」実行委員会 委員長

宗近中学校 PTA 会長

県教委の重点事業として支援を受け、中学校を拠点とし、校区内の各学校PTAの連携の下に「地域の宝」実行委員会を結成。あいさつ運動、交通指導、地区の干潟での自然観察、ボランティア活動などの実践を通して教育力の向上を目指した。市内のボランティア団体「であいねっとわーくともだち」や校区内の育成団体との協働も進めた。児童生徒間の交流、保護者の意識の変革は確実に進んだが次年度以降の活動の継続発展が課題である。

## 5 総括討論 15:45～16:15

1st day  
5.20 Sat.

## 特別報告

■時間 / 16:30 ~ 17:00 ■会場 / 講堂  
■報告者 / 三浦清一郎 生涯学習・社会システム研究者

テーマ ● 生涯学習 2005 年の総括：  
「NPO が動きだし、過疎が行き詰まり、  
社会は少子高齢化に耐えられない」

近年の変化の本質を抽出し、「教育」の社会化、「介護」の社会化、「養育」の社会化の背景を分析し、生涯学習が果たしうる日本社会の変革の基本条件を分析する。

2nd day  
5.21 Sun.

## 特別企画

■時間 / 9:00 ~ 11:30 ■会場 / 講堂

テーマ ● 「定年」と「老い」をどう生きるか？

■第 1 部 インタビュー・ダイアログ ● (9:00 ~ 10:00)  
『それぞれの「定年と老い」 - 準備プログラムと展望』  
『何をしたいのか？なぜなのか？できるのか？』

登壇者 ● 後田 逸馬 鹿児島県元実行委員、鹿児島市坂元台健康大学事務局担当



鹿児島県教育委員会社会教育主事、鹿児島市教育委員会社会教育課長を退職後、広島大学大学院で教育学修士を取得。現在、NPO 法人「かごしま生涯学習支援センター」の設立・運営に参画。行政主導型の社会教育の枠を外して、多様な構成員による会費制の月例研究会、シンポジウム、調査などの受託事業を行っている。生涯現役進行中。

登壇者 ● 紫園 来未 佐賀県実行委員、オフィスしおん主宰、あいブレーションコンツェル株式会社社長



佐賀市を拠点に「オフィスしおん」を主宰し、フリーのライターとして活動。生涯学習、まちづくり、文化創造、世界旅行などをテーマに取材執筆を続けてきた。近年の高齢化に鑑み、可能性にチャレンジすべく現職の事業を福岡に拡張。さらに、熟年期の結婚、離婚、男女参画をテーマに新しいフィールドのベンチャー事業 (?) に挑戦すべく新会社（あいブレーションコンツェル株式会社）を設立。キックオフ！さらには、近い将来、すでに開設している「NPO 法律相談センター」内に離婚相談の窓口を充実させるための準備に奮闘中。乞うご期待！

登壇者 ● 中村 由利江 広島県実行委員、「ゆめなか@情報局」、「夢講座」世話人、平成 18 年度府中南公民館地域コーディネーター



広島県体験活動ボランティア活動支援センター、(独法) 江田島青少年の家のコーディネーターを務め、現在、地域コーディネーターとして活動中。公民館勤務がきっかけで、40 代に社会教育と出会う。平成 10 年より、「紙芝居夢屋のおっちゃん」としてデビュー。紙芝居をメディアとした生涯学習実践にライフワークを見出し、近年は英語紙芝居を開拓。8 月 6 日の原爆記念日に広島市の平和公園で英語紙芝居「原爆の子サダ子の願い」の口演に挑戦し続けている。

登壇者 ● 藤本 勝市 長崎県元実行委員、長崎県時津町教育委員会学校教育相談指導員



長崎県教育委員会社会教育主事時代、草創期の九州地区生涯学習実践研究交流会を長崎から精力的に支えた元実行委員。長崎県内の中学校長時代、社会教育のネットワークを活かしていち早く学校教育に地域の人材を投入し、家庭教育の「地区出前」を行うなど学社連携の先駆・開拓的事業に着手。校長退職後は非常勤として週 4 日間学校教育関係の指導員として務める傍ら、長崎県社会教育主事の OB 会事務局長等、地域の社会教育（生涯学習）の活動を続けている。一時交流会を避ざかったが、退職後は長崎のメンバーとして再び交流会を支えてくれている生涯現役。

登壇者 ● 宮崎 克己 大分県元実行委員、大分県香々地青少年の家所長



高校教員から社会教育に転出して 17 年目。その間、中津教育事務所、県生涯学習課、県立生涯教育センターなどを経て、現職。早くから少子化に注目し、各地の子育て支援グループを幅広く支援。子育てのためのネットワークづくりを目指して、平成 16 年から子育てネットワーク大分大会を開催している。今年は大分県子育てネットワーク構築に向けて、40 人の仲間とがんばる予定。口癖は「退職後は海外シルバーボランティアに」で生涯現役。健康は耐え得るか？家族の同意は？環境は熟年の自由行動を許すか？

コーディネーター ● 正平 辰男 東和大学教授



福岡県教育委員会の社会教育・生涯学習分野を経て現職。合併前の福岡県庄内町に町営の「生活体験学校」が設置されて以来、合宿と通学という異なった要素を融合して「通学合宿」という教育概念・方法を創始し、全国に広めたパイオニアである。生活体験学校を支援するボランティアやプログラムの実態から熟年の社会参加の重要性に着目した提言を続けている。

■第2部 インタビュー・ダイアログ● (10:00～11:20)  
『残された「生涯時間20年」時代の生涯学習施策を問う』

登壇者●菊川 律子 福岡県立社会教育総合センター所長



福岡県生涯学習課長、男女共同参画推進課長、義務教育課長等を経て現職。少年自然の家と生涯学習施設の機能を併せ持つセンターにおいて「県民の学習活動支援」「子どもの育成支援」「社会教育関係者等の養成支援」に取り組む。選択と集中をめざし、センターの事業評価や改善に努力中。団塊の世代の大量「定年」と加速化する「若い」の社会的負担に対し、生涯学習・スポーツ施設はどう対応すべきなのか？

登壇者●近藤 真司 全日本社会教育連合会、「社会教育」編集長



拡散・変容を続ける生涯学習行政を支える数少ない専門メディアの編集を担当して十数年。紙面の刷新に大胆な試行錯誤を断行し、教育行政に限らずあらゆる分野の「学び」のプログラム・地方の取材に奔走し、戦略的編集に挑戦し、各地の課題解決型実践の掘り起こしに孤軍奮闘中。全国の生涯学習状況、社会教育行政施策の実態に最も詳しい。メディアの目から見て果して各地の生涯学習施策は「定年」と「若い」の問題にどのように取り組もうとしているのか？

登壇者●中嶋 玲子 福岡県男女共同参画センター“あすばる”館長



農業の傍ら福岡県初代女性農村アドバイザーに就任。地域の農業振興と女性の社会参画に取り組む。95年、99年の杷木町議選でいずれもトップ当選。2002年4月、杷木町長選で当選、九州の市町村で初の女性首長となった。町長時代の講演記録を拝見すると女性の意識変革の重要性を指摘し、「(1) 不満で終わらない、(2) 学習を嫌がらない、(3) しり込みをしない、(4) 力を付け合う、(5) 素直に認め合う、(6) 広い視野を持った地域への愛情を持つ」と提言している。「私の仕事を見て、やり方が悪かったら、『中嶋玲子』に能力がなかったのだから、女性全体に能力がないわけではない」と宣言している。若いも、若きも21世紀は男女共同参画の時代なのである。

登壇者●森本 精造 前福岡県飯塚市教育委員会教育委員長

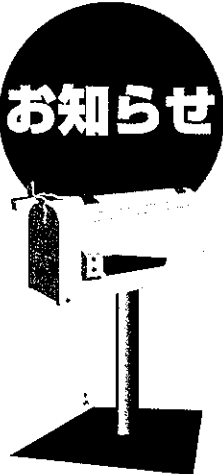


福岡県社会教育課長、県立社会教育総合センター所長をへて穂波町教育長。西日本で初めて町内全公立小学校に「学校選択制」を導入。併せて子どもの「生きる力」、子どもの居場所の確保を目的に全小学校に「穂波子ども学び塾」を創設。平成17年度は事業を拡充して、毎日の「学び塾」を学校と公民館の協働事業として定着させ、学校発「子どもの安全宣言」を実行した。さらに高齢者の学習と社会参加を重視した「高齢者学び塾」を小学校に併設し、幼老共生と学社連携の強化を視野に入れた新事業の展開に踏み切った。

コーディネーター●三浦 清一郎 生涯学習・社会システム研究者



文部省、福岡教育大学教授、九州女子大学／九州共立大学副学長を経て現職。長崎県壱岐市の「タフな子どもを育てるモデル事業」、福岡県豊津町「豊津寺子屋」、山口県「中央指導者養成講座」など学校や自治体などの顧問・相談役として活動中。月刊生涯学習通信「風の便り」に2007年問題論文を執筆中。



『風の便り』と『この指とまれ』

事務局では、第18回大会の反省と評価を受けて、平成12年度から二つの新事業を継続しています。ひとつは生涯学習通信「風の便り」、もうひとつは生涯学習フォーラム「この指とまれ」です。両方とも月1回、無料、参加自由を原則としています。ただし「風の便り」の郵送料だけは実費をお願いしています。フォーラムの開催は第3土曜日、通信の発行は月末を予定しています。みなさまのご参加をお待ちしています。詳しくは「大会受け付け係」までどうぞ。また事後の問い合わせ先は下記のとおりです。

記

- 問い合わせ先 フォーラム「この指とまれ」 福岡県立社会教育総合センター(研修・情報室 朝比奈)  
TEL 092-947-3511 FAX 092-947-8029
- 生涯学習通信「風の便り」 三浦清一郎(代表世話人)  
TEL/FAX 0940-33-5416  
Email: sdmiura@fj8.so-net.ne.jp